



市川市議会議員

稲葉健二の ひと言メッセージ

No.61

令和4年12月10日発行
稲葉健二事務所
272-0021
市川市八幡2-2-10
TEL 047-333-1783
FAX 047-334-1990
URL www.inaba-kenji.jp
MAIL kenjiinaba@aol.com

ご意見・ご要望
ご相談等、気軽に
ご連絡下さい！

資源ごみを考える

現在市川市はゴミの分別を進めていく中で、資源として再利用などができるものを回収しています。曜日で回収品目も違うと思いますが。燃やすゴミ、燃やさないゴミ、プラスチック容器包装類以外に、ビン・カン、ダンボールなどの紙類、布類等を分けて収集しています。燃やすゴミ以外はなるべく再資源化につながるように考えて進めています。

SDGsとして持続可能な社会をつくっていくには、ゴミを出さない、ゴミを再資源化することは世界共通の方向性です。ゴミの集積所に出しているビン・カンやダンボールなどの紙類、布類などは、自治会や諸団体での集団資源回収もおこなわれており、市から報奨金を出して推進をしていますが、現在時代と共に集団資源回収は活動をやめてしまったところも増えています。家庭などの事情で資源を保管することが難しい、資源を集めるかごの保管や後片付けの人材など課題が出てきています。ただ、この、集団資源回収で集めた報奨金で大きな活動に繋げたり、目的を持って頑張っているところもあります。また、松戸市などは、ペットボトルを地域団体で集めるかたちで報奨金を出しています。市川市のようなプラスチック容器包装類として出さない仕組みです。市川市はペットボトルを一部公共施設で拠点回収をしています。処理方法や回収量も課題があります。一部の企業では店舗などでの回収を行なっています。現在プラスチックの使用を、国や公共団体や企業が考えて新しい方向へ進めています。

私は議会で何回もこの問題を質問して、ゴミの減量やペットボトルをを別に回収して再資源化を促進するべきであると提案しています。集団資源回収の品目に加えることはできないものかなど提案しています。ゴミが資源になれば処分するゴミの量も減ります。現在市川市は、ゴミの焼却炉の建て替え計画を進めています。現在の焼却炉を補修しながら使用していますが、それも限りがあり、今後どのような焼却炉が必要かをコーディネーターに委託し検討を開始します。新しい焼却炉を作るにも規模が小さくなれば、建設費も運営コストも下がることになります。

現在燃やすゴミの中に含まれている資源となる紙類が3割含まれていると推測されています。この分が資源として再利用され燃やすゴミが削減できれば市川市としても大きなメリットになります。コロナ禍で議論が中断してしまいましたが、燃やすゴミの週3回から2回に変更した最大の理由はゴミの減量でした。現在の週3回は、暫定的な施策です。ゴミの有料化も検討をしなければならないこともあります。千葉県令和2年の統計にあがっている54市町のうち、36市町がゴミを有料化しています。（ゴミ袋に処分料を入れた袋を販売する方法）現在物価高で家計が苦しくなっている状況で、このような議論は心苦しいですが、将来の市川市をしっかりと考えるためには、ゴミを減量して市のゴミ処分費用を減らす身近な活動から始めなければならないと思っています。



マイクロチップ装着に助成金が出ることになりました

長年お願いしていましたマイクロチップ装着に市川市から補助金がでることになりました。この6月から、新しく犬猫を買う場合は装着が義務付けられましたが、現在飼養している犬猫にも市川市からマイクロチップ装着にかかる費用の一部助成制度が始まります。可愛いペットに可哀そうという声も聴きますが、阪神淡路大震災の際に多くのペットが逃げ出して大変なことになり、この法律ができるようになりました。少しでも多くのペットが救えるように議会で何回も提案をして実現することになりました。1頭につき2000円上限です。助成の開始時期や方法等は決まり次第市のホームページや獣医さんでご確認下さい。

安心して通園ができるためには

現在未就学児の発達に不安を抱えていらっしゃる方が多くいらっしゃいます。手帳を持たれている方や発達センターなどで療育の指導を受けていらっしゃる方などおられますが、そこに踏み出せなく迷っている方の相談を受けることもあります。制度的には、手帳や指導を受けていることが確認できれば現在通園されている幼稚園や保育園での保育の際に安心・安全に向けて人を加配できるよう応援をすることができます。お子さん本人の安心・安全な保育のために必要な制度を拡充できるように提案をしています。大阪の泉佐野市では、特別支援が必要なお子さんがいる園に心理士が出向いて支援が必要だと判断した場合に、手帳や証明書が無くても加配などの支援につなげることができるような制度がありました。もちろん保護者の了承を得て判断をする制度ですが、園と保護者以外に判定を知られることもなく、在園中の安心につなげているそうです。市川市でもこのような制度ができるように市に提案をしています。

学校教育現場のトイレの洋式化について

小中学校のトイレの洋式化について考えたいと思います。児童・生徒が支障なく使用できるように和式便器を洋式便器に改修しています。第一次計画はH20～27年、第二次計画はH28～R8年ですが、改修のスピードが遅いと指摘を受けています。議会で取り上げ進捗状況を聞き、今後の改修計画と共に新しい手法を検討して進めるべきであると提案しました。

今、小学校に入学すると和式便器の使い方を教わります。子どもたちは和式便器を初めて見る子がほとんどです。家庭などで練習や体験する機会のない子どもたちは使用を避けている子も多いようです。また、学校が避難所などになった際には、体育館も含めて高齢者の方は使いづらいものです。令和4年度末予定の改修率は小学校で約64%、中学校で約58%、全体で約63%です。令和8年度末の第二次改修計画終了時は、小学校約73%、中学校約74%、全体で約73%になる予定です。現在市内の小中学校は順次建替え計画があります。その中で早期建替え計画の学校は洋式化が低い傾向になります。そのような学校を簡易リモデル工法で整備を進めていこうと検討が始まりました。トイレは一階から、最上階まで給排水がつながっています。その1つの流れを1レーンと言います。現在は全ての学校は1校舎に1レーンは洋式化になっています。第二次改修で2レーンができあがるようです。しかし、子どもの多い学校などでは不足する状態になります。前段で述べたように災害時にも必要な設備です。1日でも早く改修が進んでいくように応援していきたいと思っています。

